

みやぎのボランティア 市民活動情報誌

2017
vol.248
毎月1日発行

1月号

杜の伝言板 ゆるるる

月刊



- 新しい寄付のカタチが見えてきた!? センダイほろ酔い寄付キャンペーン実施報告
- ゆるるる的「異論!提案!オブジェクション!」
 - ・なん年経っても絶対忘れられないこと。
 - ・3.11後の市民の力

みやぎNPOプラザからのお知らせ

活動を飛躍させる! トライアルの場に

杜の伝言板ゆるる
ホームページ





新しい寄付のカタチが見えてきた!?

センダイほろ酔い寄付キャンペーン実施報告



昨年十二月、仙台市内の飲食店十二店舗を舞台に、市民によるささやかな寄付アクション「センダイほろ酔い寄付キャンペーン」が行われました。キャンペーンを実施したのは、認定NPO法人杜の伝言板ゆるるとNPO法人せんだい・みやぎNPOセンターから構成されるセンダイほろ酔い寄付キャンペーン実行委員会です。

●●●十六日間で三〇〇人以上が参加●●●

キャンペーンの実施期間は十二月一日から十二月十六日までの十六日間でした。この間、キャンペーン協力店舗ではのべ三四三人が「ほろ酔い寄付セット」を注文し、キャンペーンによる寄付金総額は一七、三〇〇円となりました。(※人数と金額は十二月二十二日現在の集計作業中の数字)

このキャンペーンは、飲食店を訪れた市民が店ごとに設定した「ほろ酔い寄付セット」を注文することにより、その売上げのうち五十円が特定のNPOへと寄付されるという仕組み。

寄付先のNPOは五団体あり、「ほろ酔い寄付セット」を注文した市民は投票を通じて、五団体の中から自身の関心を引く一団体を選

び、寄付先とすることができま

●●●飲食店からは次回を待つ声も●●●

このキャンペーンを実施するには、飲食店の協力が欠かせませんでした。飲食店側では今回のキャンペーンをどのように捉えたのでしょうか。

青葉区国分町に店を構える「居酒屋ぼったくり」の店主、高橋聡さんは「食べ物や粗末に扱う日本社会への問題意識がもともと自分の中にもありました。今回のキャンペーンでは寄付という形を通じて、そのような社会を変えるきっかけになればと思います。参加しました。次回があるならまた協力したいです」と話してくれました。

他県から出張中の方が飲む場所を探していた折、どうせ飲むなら社会のためになるような店で、と居酒屋ぼったくりに来店したというエピソードもありました。

青葉区木町の「黒田酒Bar」では、常連のお客さんの一人が



▶実行委員会メンバー
居酒屋ぼったくり

▶実行委員会メンバーと天地を喰らふ
宮町店の石森さん(右)



「規模は小さくても地元のための取り組みは大切だ」とキャンペーンの趣旨に共感し、キャンペーン中は来店するたびに「ほろ酔い寄付セット」(黒田酒Barでは、「三種の利き酒セット」)を注文していったという話がありました。

黒田酒Barオーナーの黒田雄介さんはキャンペーンに参加した感想を次のように話しました。「お客さんが投票する際には、どの団体を応援したいか、お客さんごとの価値観が現れていたように思います。その意味でキャンペーンがコミュニケーションツールにもなっていました」。

●●●NPO側は●●●

一方、寄付金を受け取る立場のNPOには、ただ受け取るだけでなく、積極的にキャンペーンに参加してもらうことにしていました。参加の形は、協力店の紹介、S

NSや口コミによる周知、実際に誰かとお店に飲みに行く、などさまざま。

参加したNPOの声を、一部ではありますが紹介します。

「自団体のために飲みに行っているという声SNSを通してリアルタイムで伝わってきて、心が温まりました」(NPO法人移動支援Rera)。

「友人を誘いやすく、新しい寄付のあり方として可能性を感じました」(NPO法人ふうどばんく東

北AGAIN)。

参加したNPOに共通して言えることは、キャンペーンを通して多くの人々に関心を持ってもらえる、つながりができる、そのことに価値を感じているということでした。

●●● キャンペーンを終えて ●●●

十二月に全国規模で催される「寄付月間2017」の公式認定企画として、実行委員会がスタート

したのは七月末でした。

これまで県内では例がなかった試みであり、まったくゼロからのスタート。他県の事例を調べ、企画の仕組みを構築し、寄付先となるNPOを検討し、協力してくれる店舗を募り、SNSサイトなどで周知し、あつという間に十二月に入っていました。

手探り、手作りのキャンペーンとなり、「ああすればよかった、こうすればよかった」という声はもちろんあります。ただ、これま

でない新しい寄付の入り口を作る

ことができ、短い期間ながらも結果的には三〇〇人を超える人たちにその価値観を体験してもらえました。

小さな一歩ですが、いざれ大きな動きにつながると、実行委員会は手応えを感じています。



平成九年六月創刊の月刊社の伝言板ゆるるは、ちょうど二五〇号になる平成三十年二月号を持ちまして「卒刊」します。

発刊からこれまでA四版十六頁を変えず、「人」「場所」「事」に関してリポートやインタビューの記事はカラー紙一色刷りで変わっていません。当初は、NPOからの情報提

供は白紙に色文字の構成でしたが、その後、ホームページのURLやメールアドレスの情報が多くなったことを考慮して横書きに変更し、表紙と裏表紙の使い分けをしています。

ゆるるとしては、市民活動団体が市民に呼び掛ける様々な情報を、団体に代わって誌面で発信することがNPOの情報発信支援と捉え、

情報収集、情報誌発行、配布と続けてきましたが、かかる経費及び体制に限界を感じ、「卒刊」という決断に至りました。

「卒刊」まで今月を含めて残すところあと三号。「卒刊」までは、これまで市民活動を続けてきたNPOリーダーから『今、思うこと』を各自の責任の下、自由に執筆して

もらう「ゆるる的 異論！提案！オブジェクション！」の特集を組むことにしました。

今回は、準備号から三年間編集長を務めた目黒久美子さん、東日本大震災の復興支援、伝承に力を注いでいる中川政治さんの「異論！提案！オブジェクション！」をお届けします。

センダイほろ酔い寄付キャンペーン実行委員会

- TEL : 022-791-9323
- E-mail : sendai.horoyoi.charity@gmail.com
- URL : https://sendaihoroyoi.wixsite.com/sendaihoroyoi/charity/

なん年経っても絶対忘れられないこと



月刊杜の伝言板ゆるる初代編集長
宮城県自閉症協会会長

目黒 久美子

二十年前、宮城県知事が浅野史郎さんだった頃の話です。

私は障害児の親であるからと、ほたる学園ありかた検討委員会の委員を頼まれたことがありました。ほたる学園とは、宮城県福祉事業団が経営する児童の障害児入所施設でした。施設が老朽化して、しかも児童を過ぎた人々も行き場所がなく、満杯でした。保護者も施設の職員も新しい施設に建て替えを切望していました。「外の世界に出なくても、施設の中になんでもある大きな新しい施設に建て替えて、子どもたちに生涯幸せに暮らしてもらいたいという希望」でした。家庭の状況は今でも様々でお家になれば、みんなが幸せというわけありません。確かに施設のほうに幸せという場合もあるでしょう。でも……

●●●●●
●●●●●
●●●●●
●●●●●
●●●●●

●●●●●
●●●●●
●●●●●
●●●●●
●●●●●

●●●●●
●●●●●
●●●●●
●●●●●
●●●●●

職員室と居室との間には、扉がありました。開いていましたが、誰も職員室に来ません。開いているけど、来てはいけないことになっっているようでした。訳知りの障害の軽い子が来たがる子を止め

ていました。それを突破して職員室に来る子は、以前職員から貸してもらったトランプが職員の机にしまっただけのを知っているから、それが見たくなって来るのでした。初めて来た私には、突然職員机を荒らしに来たように見えました。が、そうではないのでした。全てのことには理由があるのでした。大勢の子どもたちが同じ空間にいるのですから、ひとりの事情に合わせるわけにはいきません。みなさんは、大きな施設で生涯幸せに暮らすとは、どういうことを指すとお考えになるでしょうか。

トイレにはトイレットペーパーがありませんでした。それは、トイレに手当たり次第に紙を詰め込む人がいて、トイレが詰まるためでした。職員が紙を持っていました。トイレに行きたい、紙がない。職員が「ちょっと待っていて」とその場を離れる。こどもは待ってられないから、トイレに入る。職員は途中で別の子から話しかけられる、別の用ができる。こどもは「ずっと待っていて」になる。だから、お尻を拭かないままトイレから出てきてしまう。それは、すぐに日常になる。

施設職員は、鍵をいっぱい持っていました。自閉症の重度の子がいました。その子は就寝の時間になると鉄格子のある個室に入って鍵を掛けてもらいます。中にトイレの便器がありました。これは世に言う、独房に見えました。確かに、独房そのものでした。けれど職員の方は、「開けておくと他の子が入り込んで、ものを持って行ってしまおうようないたずらをして、中の子がパニックになるのです。鍵をかければ、こどもはゆっくり寝られるのです」と言うのでした。

次の日、朝洗顔のお手伝いをしました。なんと、同じ歯ブラシが籠にたくさん入っていて、みんながそれを使うのでした。タオルも同じです。もうだいたい前に取り換え時を過ぎたかのような歯ブラシでありました。みんなが使い終わってから、全部洗って消毒するのでしよう。「みんなすごい力を入れて磨くからね」と職員の方は言いました。この歯ブラシじや力を入れたって磨けないと思いましたが、職員は忙しくてしようがないようでした。辛い商売に見えましたが、でも職員は仕事が終われば家に帰ります。ここは仕事場なので効率が大変ということでした。

居室に行ってみました。私物は押し入れの中。部屋の中にはなに

もなし。座っても窓は高くて外が見えませんでした。「窓が低いと窓から子どもが出てしまうのです」。六月ごろだったかと思いますが、庭には花もなし。「花を食べてしまう子どもがいるのです」。施設は高い塀で囲われていました。塀の上にはバラセンです。バラセンがないと外に出てしまう子どもがいるからということでしょうか。外から泥棒が入らないようにということであつたかもしれませんが、そうは思いませんでした。

それらを見ていて私の頭の中には、ある言葉がぼつかりと浮かんでいました。「人権蹂躪」です。みんな誰も悪気はない。何故そうなってしまうのか、全てに理由がある。でも：人間らしい生活なんですか？障害のせいですか？大きな、なんでも中にある建物を新築すれば、問題は解決するとは、私は全然そうは、思いませんでした。

●●● 人権蹂躪 ●●●

私が小学校六年の時です。ある子が「そんな人権蹂躪だ」と叫んだことがあります。なんじゃそれは？初めて聞く難しい言葉に教室中ビックリ仰天しました。その時、担任の先生が「よくそんな

難しい言葉を知っていて、使えなね！」と、ものすごくその子を誉めて、言葉の意味を教えてくださいました。その子は乱暴者で、意地悪でしたが、その発言で一気にクラス内での地位向上が成りました。私は先生を尊敬していたので、その子のことも尊敬しました。時々蹴っ飛ばされても「あ、人権蹂躪を知っている子だ！」とある種の尊敬を持って、べそかきながら、許した覚えがあります。あっ横道に逸れました。

それ以来「人権蹂躪」はずっと私の引き出しの中にあつて、使ったことはなく、私の人生の中で人権蹂躪に相当する事項に行き当たったのは、初めてのことでした。世はまだバブルの時代でした。同じ年頃の人々がディスコで踊っている間、重い障害を持っている子どもたちは家庭で支えきれずに入所施設に暮らしていた。それを知ることとは、とてもショックなことでした。

私は障害児を持つ友人たちに話しましたが、本当には、そのショックを理解されなかったと思います。そのくらい、現実の社会の中一般的な家庭生活との違いがありました。

それ以来、私は「母がキッチンと

意見を言えることが大事」と目標を小さく定めました。

自分のできることはその範囲なんだと今でも痛いほど思います。現在ほたる学園は、地域分散型の全く別の施設になっています。

●●● 宮城県障害者福祉計画 ●●●

先ほど中間案が策定されました。パブリックコメントを募集することになりましたが、県政だよりに載ることはありませんでした。障害に関係のない人々にとって、何の関心もない事柄のようです。現在の知事は、保護者の願いである二十年経っても変わらない「外の世界に出なくても、施設の中になんでもある大きな新しい施設に建て替えて、子どもたちに生涯幸せに暮らしてもらいたい」の強い要望に答えて、船形コロニーの施設の建て替えを決めました。バリアフリーの建物にするのだそうです。パニックになる人々のためにケガ

しないように壁が柔らかいのでしょうか。障害へのバリアフリーは、そこですか？外の世界は、依然として障害者が安心して暮らせる地域になっていないってことなのでしょいか。震災があつたから、障害者には集まって置いて欲しい

ということなのでしょいか。たくさんの方が殺されてしまった事件のあつたやまゆり苑は、船形コロニーと同じ巨大施設でしたが、先頃地域分散型に建て替えが決まったようです。船形は、巨大なまま建て替えます。なんだから、この二十年はいつたいたいなんだつたのか、虚しい今日この頃。どうぞ、良い施設になりますように。



3.11後の市民の力

公益社団法人みらいサポート石巻

専務理事

中川 政治



東日本大震災により、多くの尊い命が失われました。

あの時の映像の「とまれー。とまってくれー」という声が忘れられず、意味の無い問いと知りつつも「もし、私の命と引き換えに、あの津波を止められたら？」と考えてしまいます。では「あなたの努力で、一人の未来の命を守れるとしたら？」どうでしょうか？

震災前も震災後も多くの市民活動が行われていますが、阪神・淡路大震災で「ボランティア元年」と呼ばれたような社会的な変化が東北で起きたとは言えず、当事者の一人として忸怩たる思いを持っています。月刊ゆるるの「卒刊」特集という貴重な機会をいただき、これまでの御礼に（ならないかもしれませんが）、私の実感を寄稿させていただきます。

●●● 石巻との関わり ●●●

あの日、私は、青年海外協力隊としてフィジーにいましたが、街が津波に飲み込まれてゆく映像を見て、自分が何の知識も備えもなかった事に気づかされ、もし自分の家族が東北にいれば、死なせてしまったであろうと感じました。

二週間ほどして帰国した後、実

家のある京都で市民団体が東北向けの支援物資を仕分けする作業を手伝い、その物資が被災者の手元に届く支援をするため、これまで縁もゆかりもなかった石巻にやってきました。

●●● 石巻での連携支援 ●●●

多くのNPOが、水も電気もない東北に駆けつけてくれました。

石巻専修大学ではNPO・NGOが毎晩会議を開いており、その事務局を手伝う事となりましたが、海外の緊急支援の現場でも見たことが無いほど有機的で大規模な市民活動の連携が行われていました。

災害ボランティアセンター・自衛隊・行政との連携組織として石巻災害復興支援協議会が生まれ、NPOの活動人数や内容が自主的に共有されていました。一年間で八十万食以上の炊き出しが行われ、約十六万人が活動しましたが、これらは、自衛隊の炊き出し数や災害ボランティアセンターでの活動人数を上回っており、NPOが社会にもたらすインパクトが客観的に示されています。

私の知る限り、他の被災地域でも、以降の災害支援の現場においても、活動人数を日別に共有した

り大規模な連携事業を行うほどNPOが協働した事例はありません。震災直後は、地域の方にも、自分たちのためだけでなく助け合う自然発生的な中間支援組織が機能しており「日本を変える力になるのでは」と感じたのは、私だけではなかったと聞いています。

●●● 「自立」や「復興」の難しさ ●●●

仮設住宅・災害公営住宅におけるコミュニティ支援や自立支援の必要性を否定する方は少ないと思います。しかしながら、被災者や高齢者は仮設住宅や復興住宅にだけいるわけでもなく、極端な例えをすると「復興住宅の自治会長に無償でコミュニティの面倒をみるようお願いする」自立支援スタップが有給、という本質的な矛盾も抱えており、コミュニティ支援は簡単ではありません。

また、日本の人口や経済全体が場当たりの対応が通用しない下り坂の中、阪神・淡路大震災後に明確な人口回復が見て取れる神戸市と異なり、石巻市では、数千億円規模の復興事業の助けを借りても、人口減少が止められたのかも判然としません。何をもち「復興」とみなせばよいのかがわから

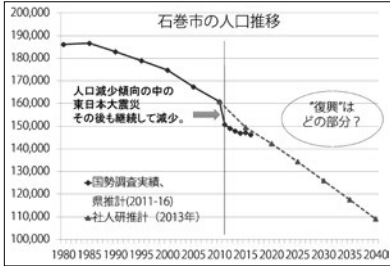
ないのです。(図参照)

石巻市では、仮設住宅の自治会長らが連携して石巻仮設住宅自治連合推進会が立ち上がり、私たちもサポートさせていただきましたが、外部者ができることの限界や、NPOが「自立」支援に関わる困難さを実感しています。

現在は推進会が発展した一般社団法人石巻じちれんが復興住宅と周辺地域のコミュニティ支援に取り組んでいます。但し、当事者の取り組み以外には良い事例を生み出しにくく、なっているように感じます。

●●● 支援の連携から伝承の連携へ ●●●

震災後に設立した石巻災害復興支援協議会は二〇一二年にみらい



▲石巻市は変わらず減少傾向。「復興」が見えにくい



▲神戸市は震災後に人口回復。「復興」がわかりやすい

サポート石巻に名称を変更しましたが、緊急支援の調整の場づくり、仮設自治会長による連合組織づくりなど、一貫して中間支援組織の事務局業務を担ってきました。

震災支援ボランティアへの語り部からスタートした震災伝承活動は、この月刊ゆるるでも紹介いただいたICTを活用した防災まちあるきや震災伝承施設「南浜つなぐ館」の運営に発展してきました。一方で、石巻ビジターズ産業ネットワーク震災伝承部会や震災学習コンファレンスを通じ、石巻地方で活躍する語り部や伝承団体との伝承活動の連携にも継続して取り組んできました。

●●● 3.11メモリアルネットワーク ●●●

震災伝承の連携や勉強会を進めてきましたが、対価を受けとることへの反発もあり、なかなか組織化へは発展することができませんでした。「誰でもいつでも入会可能」、「当事者同士の推薦投票による役員選出」という、ある意味では行政機関よりも開かれた公的な規約を準備することで、五十年、百年、伝承を続ける覚悟を持った方々が組織化への一歩を踏み出し、

二〇一七年十一月に「3.11メモリアルネットワーク」が発足しました。十二月には第一回の役員推薦投票が行われ、十一名の理事の中から代表が選出されました。発足からわずか二十日間ほどで岩手・福島からも含めて二二〇名以上の会員が集まり、その後も増え続けており、市民活動の高まりを実感しています。

●●● 未来の世代のための基金 ●●●

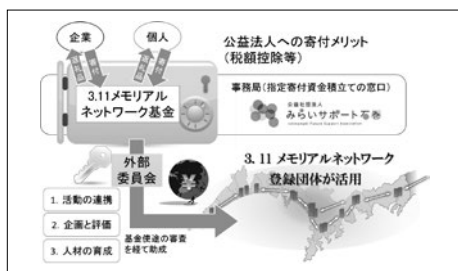
NPOは、活動資金の問題から離れることができません。特に震災後に生まれた団体は、震災十年後の「復興期間終了」を二年後に控え、その活動の在り方が問われています。「地方創生」が叫ばれても、多大な復興予算が投じられても、前述のように人口減少を止められず、若い世代が雇用を求めて流出してゆくの今の東北です。

語り部さんたちから「逃げれば助かったはずの命の大切さ」、「家族と食卓を囲む時間のかけがえのなさ」を伝え聞くことができます。あの震災があったこの地域だからこそ、暮らしの質、人生の豊かさを見据えた、主体的な歩みを進めることができるのではないのでしょうか？南海トラフ地震などの津波

想定地域の方々だけでなく、どなたにも価値があり、未来を拓く力になると考えています。

3.11メモリアルネットワークでは「活動の連携」、「企画と評価」、「人材の育成」を活動の三本柱としています。自治体や組織の枠を超えた活動に、これから困難な時代を迎える若い世代が、仕事として関わりたいながら震災の教訓を継承してゆけることを目指して基金を設置しました。

改めて、最初の疑問にもどります。「あなたの努力で、一万人の未来の命を守れるとしたら？」若い世代があの震災から命をつなぐ活動を継承するため、基金が必要で。震災直後に多くの共助の力が結集したように、皆様の覚悟と連携により結成された3.11メモリアルネットワークから、東日本大震災後の日本を変える市民の力が生み出されることを願っています。



▲組織・基金については<http://311mn.org/>

活動を飛躍させる!

トライアルの場に

みやぎNPOプラザ

このページは、みやぎNPOプラザからのお知らせです。

現在みやぎNPOプラザ(以下、プラザ)では、レストラン、常設ショップ・ギャラリーと事務室を使用するNPOや市民活動団体を募集中です。今回はレストランスペースにスポットを当てて紹介します。

レストランでステップアップ

プラザのレストランスペースは、NPOのコミュニティビジネスの実践の場として、最長三年間という期限付きで使用することができます。

冷蔵庫やガスレンジ、シンクなどの厨房機器のほか、テーブルやイスなども揃っており、少ない初期費用と一五、四〇〇円という安価な月額使用料でレストランを開くことができます。

これまでプラザのレストランを運営した団体は、障がい者を支援する団体が多く、障がいをもった人たちが働く経験を積む場所として活用されてきました。

例えば、NPO法人福祉ネットABCはプラザのレストランを使用後、宮城県庁十八階で「レストランぴあ」を開店し、現在は社会福祉法人仙萩の杜びあとして活動しています。また、NPO法人

シャロームの会は、プラザでレストランを開きながら、仙台三越定禅寺通り館五階にカフェを、宮城野区西宮城野には惣菜店を開店して、店舗を拡大しました。プラザのレストランの使用後は仙台市中央卸売市場でレストランをオープンし、継続して障がい者の雇用の場作りに励んでいます。それぞれ着実に新たな事業を展開し、ステップアップしています。

ランチタイムが成功の鍵

プラザ周辺は、飲食店が少ないため、お昼の時間帯はプラザや同じ建物の三階にある宮城県婦人会館の利用者や、近隣の行政庁舎で働く人たちが賑わいます。そのため、ランチタイムの営業が『成功のカギ』です。実際に「レストランがあつてとても便利」という声が多く聞かれます。

このスペースはプラザの開館時間の午前九時三十分から午後九時三十分の間で開店時間を設定できるため、ランチタイムの他にティータイムなどの時間を設けたり、貸し切りでの立食パーティなど、アイディア次第で活用の幅も広がります。環境が整っています。

PRをサポート!

プラザでは、日々のレストラン営業の相談はもちろんな、レストランのメニューや様子などをブログやフェイスブックでお知らせするなど宣伝にも協力しています。

新たにコミュニティビジネスに挑戦してみたいけれど、まだ踏み出せないでいるという団体のみなさま、三年間という限られた期間ではありますが、レストランスペースを最大限に活用してみませんか。



▶明るい店内でのんびりランチタイム

みやぎNPOプラザ施設使用団体募集中

※1月10日(水)から申込み受付開始

●募集施設と募集団体数

【レストラン】 1団体
【常設ショップ・ギャラリー】 1団体
【事務室(大)(中)(小)】 各1団体

●月額使用料(税込)

【レストラン】 15,400円
【事務室(大)】 18,500円
【事務室(小)】 4,100円

【常設ショップ・ギャラリー】 10,200円
【事務室(中)】 9,200円

●使用期間 3月1日(木)～最長3年

申込方法

所定の申込書と必要書類をみやぎNPOプラザ窓口、宮城県共同参画社会推進課で配布中。「みやぎNPO情報ネット」からもダウンロード可能

申込受付期間

1月10日(水)～2月16日(金)

◆プラザのNPO向け講座◆

NPOのための決算書作成初級講座in大崎

日時: 1月30日(火) 13:00～15:30

会場: 大崎市市民活動サポートセンター 大会議室(3階)

お申込みはコチラから

みやぎNPOプラザ

〒983-0851 仙台市宮城野区榴ヶ岡5

指定管理者: 認定特定非営利活動法人 社の伝言板ゆるる

●TEL: 022-256-0505 ●FAX: 022-256-0533

●E-mail: npo@miyagi-npo.gr.jp

公益財団法人倶進会 一般助成

- 助成対象：①事業・活動(身体障害などの理由により困難な状況にある幼児・若年者の順調な育成・教育支援、教育を受けられないものへの教育支援、障害者・高齢者への諸活動の支援など)
②研究(事業・活動の各項目に関する研究)
③設備・備品(必要な備品の購入や施設の設備)
④会議参加(事業・活動に関連する海外での会議等への参加)
⑤会議開催(事業・活動に関連する会議等の開催)
- 対象団体：実際に日本国内で活動あるいは研究に従事している団体・個人
- 助成金額：①50万円以内 ②30万円以内 ③80万円以内
④20万円以内 ⑤40万円以内
- 応募締切：1月22日(月)必着
- 連絡先：公益財団法人倶進会
E-mail：mail@gushinkai.com
URL：http://www.gushinkai.com/index.html

2018年度 CO・OP共済 地域ささえあい助成

- 助成対象：以下の①～③のテーマの対象となる活動であり、生活協同組合とNPO・ボランティア団体等が協同した取り組み
①くらしを守り、くらしの困りごとの解決に資する活動
②命を守り、その人らしい生き方ができるようにする活動
③女性と子どもが生き生きする活動
- 対象団体：日本国内を主たる活動の場とする、生活協同組合、NPO法人、任意団体、市民団体(今後設立予定の団体含む)
※生活協同組合以外の団体が応募する場合には、活動内容が「生活協同組合と協同して行うもの」であること
※生活協同組合が応募する場合には、活動内容が「生活協同組合以外の団体と協同して行うもの」であること
- 助成金額：1件あたり原則上限100万円
- 応募締切：1月31日(水)当日消印有効
- 連絡先：日本コープ共済生活協同組合連合会
渉外・広報部 地域ささえあい助成事務局
TEL：03-6836-1320(平日10:00～17:00)
URL：http://coopkyosai.coop/about/csr/socialwelfare/2018.html

平成30年度明治安田クオリティオブライフ文化財団 地域の伝統文化助成

- 助成対象：①地域の民俗芸能への助成
②民俗技術への助成
- 対象団体：民俗芸能・技術の継承、特に後継者育成のための諸活動を行う個人または団体。
- 助成金額：①1件につき上限70万円
②1件につき上限40万円
- 応募締切：1月31日(水)当日消印有効
- 連絡先：公益財団法人明治安田クオリティオブライフ文化財団

TEL：03-3349-6194

URL：http://www.meijiyasuda-qol-bunka.or.jp/

平成30年度第1期 公益財団法人仙台観光国際協会 市民国際交流事業補助金

- 助成対象：仙台市内で行われる国際交流、多文化共生、国際協力活動、異文化理解を促進するための事業 ※下記URL参照
- 対象団体：主に仙台市内で活動し、団体構成員の過半数が仙台市在住又は通勤・通学している非営利団体
- 助成金額：上限10万円
※補助対象金額により交付額の上限が異なる
- 応募期間：2月1日(木)～2月28日(水)必着
- 連絡先：公益財団法人仙台観光国際協会
TEL：022-268-6260
URL：http://www.sentia-sendai.jp/

東日本大震災復興支援 JT NPO応援プロジェクト第2期 第4回

- 助成対象：「ひとり一人の想いを育むコミュニティづくり支援」で、下記いずれかに該当するもの
(1)自らの力でコミュニティづくりに取り組む住民を応援する事業
(2)生活の課題を自らの力で解決することが困難な住民を支援する事業
- 対象団体：岩手県・宮城県・福島県のいずれかに常設の活動拠点があり、被災した地域や人々を対象に日常的な活動を行い、その実績が2年以上ある民間の非営利組織(法人格の有無・種類不問)
- 助成金額：1件あたり150万円以上500万円以下
- 応募期間：2月14日(水)～2月28日(水)当日必着
- 連絡先：認定NPO法人日本NPOセンター
『東日本大震災復興支援 JT NPO応援プロジェクト』事務局(担当：中川)
TEL：03-3510-0855
URL：http://www.jnpoc.ne.jp/?tag=311jisin-fund-jt

2017年度 公益財団法人ノエビアグリーン財団 助成事業

- 助成対象：児童、青少年の健全育成の向上を目的とした体験活動、およびスポーツの振興に関する事業を積極的に行い、奨励している活動。
※活動分野については、下記URL参照。
- 対象団体：公益社団法人、公益財団法人、一般社団法人、一般財団法人、NPO法人等
- 助成金額：1件あたり上限300万円
- 応募締切：2月28日(水)当日消印有効
- 連絡先：公益財団法人ノエビアグリーン財団
TEL：03-5568-0305
(土日祝日・年末年始を除く9:00～17:30)
URL：http://www.noevirgreen.or.jp/

2/4 難病患者等 ボランティア講座

難病に関わるボランティアに興味のある方に向けて難病に関する基礎知識や難病患者さんへの関わり方を学ぶ講座です。

- 日 時：2月4日(日) 10:00～15:30
- 場 所：仙台市シルバーセンター 7階第一研修室
- 講 演：①「仙台市の難病対策と施策・制度」
菅原美幸氏(仙台市健康福祉局障害福祉部障害者支援課)
②「車椅子介助のポイント」
中里俊晴氏(社団法人日本筋ジストロフィー協会宮城県支部)
③「on, off 不思議な私を生きる」
鈴木明美氏(多発性硬化症(MS)虹の会)
- 申込方法：1月9日(火)から下記連絡先にTEL、FAX、E-mailで申込み
- 主 催：NPO法人宮城県患者・家族団体連絡協議会
- 連絡先：TEL : 022-796-9130
FAX : 022-211-1781
E-mail : mpc.miyagi@beetle.ocn.ne.jp

- 日 程：2月17日(土)、2月18日(日)、2月24日(土)
- 場 所：宮城野区中央市民センター会議室1、体育館
- 対 象：3日間全て受講でき、仙台市内に在住もしくは勤務地がある18歳以上で、地域の障害者スポーツ活動等に従事しているか障害者スポーツの振興に関心・意欲のある方
- 定 員：30名 ※定員を超えた場合は抽選。
- 受講費：無料 ※テキスト代3,500円、資格認定希望者は別途9,300円が必要
- 持 ち 物：運動に適した服装、運動に適した室内用シューズ、筆記用具、昼食
- そ の 他：全課程を修了した方は(公財)日本障がい者スポーツ協会公認「初級障がい者スポーツ指導員」の資格認定を受けられます。
- 申込方法：申込用紙を下記URLからダウンロードし、必要事項を記載のうえ、郵送で申込み。
- 申込締切：1月26日(金) 必着
- 主 催：仙台市、仙台市障害者スポーツ協会
- 連絡先：仙台市障害者スポーツ協会
〒983-0039 仙台市宮城野区新田東4-1-1
仙台市新田東総合運動場 宮城野体育館内
TEL : 022-236-8690(月～金10時～17時)
FAX : 022-236-8691
URL : <http://www1.odn.ne.jp/sdsa/teach.html>

2/10 ろうあ者社会生活教室「終活セミナー～万が一の時に慌てないために～」

身内が亡くなった時に何をすればいいの？お葬式の流れてどうなっている？エンディングノートってあった方がいいの？などなかなか聞きづらい疑問を解決してみませんか？

- 日 時：2月10日(土) 13:30～15:30
- 場 所：宮城県聴覚障害者情報センター 研修室
- 講 師：阿部慶智氏(株式会社菊地葬儀社支配人)
石川和美氏(株式会社菊地葬儀社副支配人)
- 参加費：無料(事前申込み不要)
- 情報保障：手話通訳、要約筆記
- 主 催：宮城県聴覚障害者情報センター(みみサポみやぎ)
- 連絡先：〒980-0014 仙台市青葉区本町3-1-6
宮城県本町第3分庁舎1階
TEL : 022-393-5501 FAX : 022-393-5502
E-mail : info@mimisuppo-miyagi.org

2/18 防災力UP講座 みんなでつくろう！避難所設計図

災害時、障害者、高齢者、妊産婦、乳幼児等、誰もが安心して過ごせる避難所とはどうあったらいいのでしょうか。小中学生と保護者を対象に、避難所の設計図をつくるワークショップを行います。お楽しみタイムも設けています。

- 日 時：2月18日(日) 10:00～13:00
- 場 所：エル・パーク仙台 スタジオホール
- 対 象：仙台市に住む小学4・5・6年生と保護者及び中学生
- 定 員：60名(参加無料)
- 申込方法：下記連絡先にTEL、FAX、E-mailで申込み。児童生徒名、学校名、学年、保護者名と保護者の参加の有無、住所、TELをお知らせください。
- 申込締切：1月31日(水)
- 主 催：NPO法人イコールネット仙台
- 連絡先：TEL : 090-1398-5065(佐藤)
FAX : 022-271-8226
E-mail : emuna@ve.cat-v.ne.jp

2/17 平成29年度仙台市初級障害者スポーツ指導員養成講習会

障害のある方のスポーツ活動を継続的に支援する人材を育成する養成講習会を開催します。

情報をお待ちしています

- 申込方法：問合せ先を明記の上、FAX、e-mail、郵送にてお寄せ下さい。 **掲載は無料です!**
- 締切：毎月15日(翌月15日以降開催・締切となる情報を掲載します)
- 紙面の都合で掲載できない場合があります。○お問合せは事務局まで。※申込みいただいた情報は「みやぎNPO情報ネット」にも提供いたします。

認定NPO法人杜の伝言板ゆるる
〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡3-11-6 コーポラス島田B6
TEL : 022-791-9323 FAX : 022-791-9327
e-mail : npo@yururu.com

みやぎのNPO・市民活動を支援するWebサイト「みやぎNPO情報ネット」

<http://www/miyagi-npo.gr.jp>



NPO法人杜の伝言板ゆるるが宮城県と協働で運用する、みやぎのNPO・市民活動を支援するWebサイトです。ボランティアやスタッフの募集、講座・イベントのお知らせ、助成金・行政情報など、市民活動・NPOに役立つ情報が満載です。

連絡先 ●TEL/FAX : 022-256-0511
●E-mail : info@miyagi-npo.gr.jp



1/26 簡単ホームページ作成講座

ホームページをつくるのが初めてという方にお勧めする講座です。最新のサービス(Jimdo)を利用すれば、簡単にしかもほとんど費用をかけないで、スマホにも対応したホームページをつくることができます。

- 日時：1月26日(金) 10:00～15:00
- 場所：みやぎNPOプラザ 研修室
- 対象：パソコンの基本操作ができる方
- 定員：5名(先着順)
- 参加費：4,000円(テキスト代)
- 持ち物：Wi-Fi 対応のパソコンを持参してください。持参できない方にはWindows7のパソコンをお貸しします(台数に限りがあるので先着順)
- 申込方法：下記ホームページの申込欄から
- 申込締切：1月21日(日)
- 主催：NPO法人イー・エルダー東北支部
- 連絡先：TEL：022-796-8091
E-mail：tohoku@e-elder.jp
URL：http://www.e-elder.jp/tohoku/



1/27 効果的な情報発信のためのワークスタジオ

プロのクリエイターから直接学べる、情報発信を目指すあなたのための講座です！

- 日時内容：1月27日(土)
 - ①「出版にチャレンジ！電子書籍の作り方」
10:00～12:30
講師：伊東利光氏
 - ②「だれでもカンタンに描ける！春のイラスト講座」
13:00～15:30
講師：鈴木舞氏
- 場所：メディアデザイン・ワークスタジオ
(仙台市青葉区木町通1-1-11 朝日プラザ北一番丁1階)
- 定員：各5名(先着順)
- 参加費：各2,000円(当日会場で支払い)
- 持ち物：筆記用具、①のみノートPCも
- 申込方法：下記連絡先にTEL、E-mailで申込み。
- 主催：一般社団法人メディアデザイン
- 連絡先：担当：千葉
TEL：090-3049-0613
E-mail：chiba@mediadesign.jp



1/27 市民のための防災力UP講座in青葉

青葉区にお住まいの皆様を対象に、地域の防災力UPをめざした講座を開催します。この機会に防災・減災を身近なところから考えてみませんか？

- 日時内容：①1月27日(土) 13:30～16:00
 - ・なぜ、防災・減災に「女性の視点」が必要か！
 - 講師：宗片恵美子氏(NPO法人イコールネット仙台代表理事)
- ②2月4日(日) 13:30～16:00
 - ・「災害時、こんな時の対応は…」避難所づくりワークショップ
- 場所：エル・パーク仙台 141ビル・仙台三越定禅寺通り館 5階創作アトリエ
- 定員：20名(先着順)

- 参加費：600円(2講座分)
- 申込方法：下記連絡先にFAXかE-mailで申込み
- 申込締切：1月20日(土)
- 主催：女性防災ネット青葉
- 連絡先：FAX：022-219-5641
E-mail：jyoseibousai_aoba@outlook.jp



1/28 てんかん医療講演会・相談会

「てんかん治療の最新情報」

講演のあと、参加者同士の交流会があります。てんかん関連の書籍の紹介・販売もあります。

- 日時：1月28日(日) 13:00～16:30
- 場所：仙台市市民活動サポートセンター 6階セミナーホール
- 講師：大槻泰介氏(てんかん専門病院ベテテル院長)
- 定員：80名(無料)
- 主催：公益社団法人日本てんかん協会宮城県支部
- 連絡先：仙台市障害者総合支援センター
TEL：022-771-6511



1/28 パレスチナ現地訪問報告会

「占領から半世紀—パレスチナは今」

ヨルダン川西岸・東エルサレム・ガザ地区が1967年にイスラエルによって軍事占領されてから、50年が経過しました。また、米国のトランプ大統領がエルサレムをイスラエルの首都と「首都」と認定して米国大使館をエルサレムに移転させる考えを表明したことで、現地では抗議行動が広がっています。現地の最新の状況をお伝えします。

- 日時：1月28日(日) 13:30～16:00
- 場所：仙台市市民活動サポートセンター 研修室5
- 報告者：石川雅之氏(パレスチナと仙台を結ぶ会代表)
- 内容：12月から1月にかけて現地を訪問した様子を報告
- 参加費：300円(事前連絡不要)
- 主催：パレスチナと仙台を結ぶ会
- 連絡先：TEL：022-251-3106
E-mail：isigyuu@ybb.ne.jp



2/4 「日本食の魅力と健康有益性」

～子供に伝えたい和食～

日本人の平均寿命は伸び続け、世界有数の長寿国として知られています。日本人は寿命が長いだけでなく、自立して生活できる期間を示す健康寿命も長く、その理由は、欧米人と異なる特徴的な食生活のおかげだと考えられています。その健康有益性とは！

- 日時：2月4日(日) 10:00～11:45
- 場所：仙台市市民活動サポートセンター 研修室5
- 講師：都築毅氏(東北大学大学院農学研究科食品化学分野、准教授)
- 定員：50名(先着順、参加無料)
- 申込方法：下記連絡先にFAXかE-mailで申込み。
申込み時、住所、氏名(ふりがな)連絡先(電話・E-mailアドレスなど)をお知らせください。
- 申込締切：1月31日(水)
- 主催：NPO法人自然農食みやぎ
- 連絡先：担当：高木 邦寛(たかぎ くにひろ)

②ミニ講座「親子で身体ほぐし～ゆるゆるストレッチヨガ」30分程度
 講師：大友野莉子氏(ヨガガイド)
 【第2部】「心の居場所づくり」14:30～15:30
 第1部に参加された方には、ご希望でプロのカウンセラーが個別で相談対応します。

- 場 所：仙台市戦災復興記念館 5階 和室1・2
- 対 象：6～12歳(小学校1年～6年生)と保護者
- 参 加 費：【第1部】大人1,500円(子ども無料)
 ※当日、受付でお支払いください
 【第2部】無料
- 持ち物等：【第1部】飲み物等、動きやすい服装
 【第2部】飲み物・おやつ等
- 申込方法：下記連絡先にE-mailで申込み。申込み時、お子様の学年とお名前、保護者のお名前、その他連絡事項をお知らせください。
- 申込締切：1月19日(金)
- 主 催：H2Oカウンセリングセンター
- 連絡先：担当：大友
 TEL：070-5628-8207(18:30～20:00)
 E-mail：h2okokoro@gmail.com

1/21 映画「いただきます みそをつくる こどもたち」上映会

- 日 時：1月21日(日) ①10:30～、②14:00～
- 場 所：宮城野区文化センター パトナシアター
- 定 員：各回120名
- 参 加 費：1,000円(中学生以下無料)
 ※当日お支払いいただきます。
 ※お子様と一緒にご覧いただきたいとの主催者の思いがあり、会場では多少騒々しくなってしまうこともあるかと思いますが、ご了承の上、ご参加ください。
- 申込方法：<https://goo.gl/forms/wmMIFzqitCbVpGei1>
 または、下記連絡先へメールの場合は、①氏名、②性別、③職種または所属、④ご住所、⑤電話番号、⑥ご希望上映時間、⑦参加人数を記載の上、申してください。
- 主 催：NPO法人まちあす
- 連絡先：E-mail：npo.machius@gmail.com

1/22 実体験から考えるよりよい『理事会運営』のあり方

セミナーでNPO法人の理事としての役割・責任について学び、ゲストから具体的な理事会運営の成功体験や失敗体験など伺います。

- 日 時：1月22日(月) 13:30～16:30
- 場 所：仙台市市民活動サポートセンター セミナーホール
- 講 師：大久保朝江
 (認定NPO法人杜の伝言板ゆるる代表理事)
- ゲ ス ト：・小玉順子氏(NPO法人おおさき地域創造研究会 理事・事務局長)
 ・坂口和隆氏(認定NPO法人日本NPOセンター 法人運営チームリーダー)
- 定 員：30団体
- 参 加 費：1000円(税込)
- 対 象：仙台市内に事務所を置くNPO法人の代表者、理事、事務局長など
 ※仙台市外のNPO法人や非営利団体の方はご相談ください。

- 申込方法：下記連絡先にTEL、FAX、E-mailで申込み。
- 主 催：認定NPO法人杜の伝言板ゆるる、仙台市
- 連絡先：TEL：022-791-9323 FAX：022-791-9327
 E-mail：npo@yururu.com

1/25 子育て支援活動を応援するイベント 活動見本市

子育て真っ最中のママ、保育園、幼稚園の先生方、活動している支援者の皆さんが集まって、子育て支援活動のあれこれ活動PRやパネル展示、交流会を通して『みて、知って、つながる場』です。イベントや講座の企画、楽しいことがはじまる見本市。

- 日 時：1月25日(木) 13:30～16:00
- 場 所：仙台市子育てふれあいプラザ のびすく泉中央 4階ホール・活動室
- 内 容：①活動PRの場 ステージ発表13:30～15:00
 ②広報の場 パネル展示・チラシ設13:30～16:00
 ③つながる場 交流会 15:00～16:00
 「イベントに来て欲しい」「この活動がもっと知りたい」「コラボして何かやってみたい」「わたしも活動したい」名刺交換や出演交渉で、出演・出展者・参加者がつながる時間
- 対 象：幼稚園、保育園などのイベント企画担当される方。仙台市内の子育て支援活動に興味・関心のある方。活動をはじめたい方。
- 参 加 費：無料
- 申込方法：直接会場へ(事前にお知らせ頂けると幸いです)
- 主 催：仙台市子育てふれあいプラザのびすく泉中央
- 連絡先：のびすく泉中央 活動支援担当
 TEL：022-772-7340 FAX：022-375-0671

1/26 第2回 宮城発 これからの福祉を 考える全国セミナー

10年後、20年後の将来をしっかりと見据え、誰もが住み慣れた地域で暮らし続ける支え合い体制づくりを継続・発展させていくために、今後の活動のあり方について考えます。

- 日 時：1月26日(金) 10:20～16:50
- 場 所：太白区文化センター 楽楽楽(ららら)ホール
- 内 容：①基調報告「地域支え合いを推進するための宮城県の役割」
 ②事例発表とディスカッション「被災者支援から地域づくりへどのように展開されてきたのか」
 ③県内35市町村の取り組みの紹介など
 ※詳細はHPをご確認ください。
- 定 員：500名程度(参加無料)
- 対 象：関心のある全ての方
- 申込方法：下記連絡先にFAX、E-mailで申込み。
 ※開催日の1週間前頃に参加券を発送しますので、当日ご持参ください。
- 申込締切：1月10日(水)
- 主 催：宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議
- 連絡先：社会福祉法人宮城県社会福祉協議会 震災復興・地域福祉部(担当：村上、荒井)
 TEL：022-266-2621 FAX：022-266-3953
 E-mail：g010@miyagi-sfk.net
 URL：http://www.miyagi-sfk.net/mutual_support

●連絡先：TEL：090-8616-1397
URL：http://toi2015.o.oo7.jp/

1/13 子どもの村東北 人材養成研修 第6期公開講座(全2回講座)

本講座は、里親をされている方や支援されている方、社会的養護の子どもの養育や子どもの村に関心のある方々のために企画しています。ご関心のある方は、是非ご参加お申込みください。

●日時内容：第1回 1月13日(土) 13:30～16:30

「思春期の性の問題と対応に関する事例検討」
講師：岡本正子氏(大阪府衛生会診療所医師)

第2回 1月27日(土) 13:30～16:30
「フォスタリングチェンジプログラムの理論と実践」
講師：松崎佳子氏(広島国際大学特任教授)

●場 所：子どもの村東北 センターハウス 杜のホール
●対 象：子どもの村東北に関心のある方、養育里親、養子縁組里親など社会的養護に関わる方、その他、福祉・教育関係の方々

●定 員：30名程度
●資 料 代：1講座あたり500円を当日頂戴します
●託 児：託児希望の方は、各回の1週間前までに必ず予約をお願いします(託児利用は無料)
●申込方法：下記連絡先にTEL、FAX、E-mailで申込み。
●主 催：認定NPO法人子どもの村東北
●連絡先：担当：橋浦一愛
TEL：022-748-6936
FAX：022-748-6931
E-mail：info@cvtohoku.org

1/18 いしのまき高校生『絆力』向上プロジェクトシンポジウム ～これからの協働連携を考える～

高校生、地域企業との有機的な接続を促すことで、これからの石巻を面で支える仕組みの構築を図ります。

●日 時：1月18日(木) 13:30～17:00(開場 受付13:00～)
●場 所：東松島市コミュニティセンター 研修室
(〒981-0503 東松島市矢本大溜1-1)
※無料駐車場あり
●内 容：第1部 基調講演「高校に入る支援～様々な連携の形を作り、若者を支える(神奈川県事例より)～」
講師：岩本真実氏(K2インターナショナルグループ湘南・横浜若者サポートステーション統括責任者など)
「地域の支援団体と連携した進路支援の取り組み」
講師：大橋孝幸氏(宮城県石巻北高等学校飯野川校進路指導部長)

第2部 グループトーク「協働で地域が輝く」
●対 象：学校等教育関係者、地域の若者支援機関、不登校・引きこもり支援機関、企業、石巻圏域にお住まいの方
●定 員：100名(参加無料。定員になり次第、受付終了)
●申込方法：下記連絡先にFAX、E-mailで申込み。件名に「絆力シンポジウム」と明記し、氏名、勤務先・所属先、TEL、住所、E-mailをお知らせ下さい。
●主 催：認定NPO法人Switch
●連絡先：ユースサポートカレッジ石巻NOTE
担当：小野寺
TEL：0225-25-5374 FAX：0225-25-5384
E-mail：info@npo-switch.org

1/19 シニアのための パソコン、タブレット無料相談会

パソコン、タブレットでわからないところや疑問点などありましたらご自分のパソコンやタブレットをもってお気軽にお出かけください。

●日時場所：①会場 せんだいメディアテーク7階
1月19日(金)、2月16日(金)
時間10:00～12:00
②会場 仙台市シルバーセンター7階
1月29日(月)、2月5日(月)2月19日(月)
時間13:00～15:00
●対 象：60歳以上
●定 員：各回10名(参加無料、先着順)
※定員になり次第締切
●申込方法：下記連絡先にTEL、FAXで申込み
●主 催：NPO法人仙台シニアネットクラブ
●連絡先：TEL・FAX：022-395-7921

1/20 親子で育つ『H2Oぽかぽか講座』

お母さん、お父さん、おばあさん、おじいさん…日々、お疲れさまです!そんな中、子どもと一緒に気軽に行って、子育てで気になることが話せて、おまけに楽しみながら知識まで学べる場があったらいいなあ、と思ったことはありませんか?…そんな場が…昨年7月からスタートしました。ぜひ、おでかけください。

●日時内容：1月20日(土) 13:00～15:30
【第1部】
①子育て講座「子どもと親が楽しめる曲」と絵本の読み聞かせ 13:00～14:00
フルート奏者・内出京子さんによる、楽しいフルートの演奏と絵本の読み聞かせ。

縦覧申

●縦覧中の団体の申請書類はこちらから確認できます

■宮城県 <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kyosha/seturitu-zyuran.html>
■仙台市 http://www.city.sendai.jp/d01/1202909_1433.html

!! 仙台市における認証手続きの変更について

国家戦略特別区域法第24条の4の規定により、仙台市では特定非営利活動促進法の特例が適用され、仙台市が所管するNPO法人の認証申請(設立、定款変更、合併)における申請書類の縦覧期間が、2カ月から2週間に短縮される等、認証手続きが変更になりました。仙台市は、縦覧期間中の申請書類をホームページで公表します。右記のURLからご確認ください。 ■http://www.city.sendai.jp/d01/1202909_1433.html

NPO法人に認証された団体		宮城県等所轄分11月11日～12月10日 仙台市所轄分11月11日～12月10日	
団体名	所在地	活動内容	認証日
ルネッサンス ファクトリー	色麻町	地方における人口減少の抑止・移住定住の促進	11/14
じゅーびたつ	丸森町	丸森町に対する移住定住の促進、既存産業の発展、新しい産業の創出に関する事業	11/20

宮城県のNPO法人数

820団体

※2017年12月10日現在

●宮城県等所轄：407団体 ●仙台市所轄：413団体

有給スタッフ



急募!フードバンクでサービス管理責任者やりませんか!

就労移行支援事業のサービス管理責任者を募集しています。フードバンクの仕事を通じて障害や様々な悩みを抱えている方々に対し、就労・復職の実現を目指します。

- 勤務場所：富谷市成田8-1-1
- 職種：サービス管理責任者(就労移行支援事業)
- 仕事内容：
 - ・就労移行支援事業所のサービス管理責任者
 - ・フードバンクを通じて障害や様々な悩みを抱えている方々に対し、就労・復職の実現を目指します。
 - ・サービス提供計画の作成
 - ・事務業務(パソコン：ワード、エクセル)
- 勤務時間：9：00～18：00
- 給与：月額 200,000円～230,000円
- 休日：土日祝
- 待遇：健康保険、厚生年金、雇用保険、労災保険、交通費支給、車通勤OK、無料駐車場有
- 資格：サービス管理責任者有資格者、就労移行支援事業経験者優遇
- 申込方法：下記連絡先へTELで問合せ。
- 募集主体：NPO法人ふうどばんく東北AGAIN
- 連絡先：宮城県富谷市成田8-1-1
TEL：022-779-7150
FAX：022-774-1410
E-mail：info@foodbank.or.jp
※対応可能な日時：月～金

事業案内



なりたてママの子育てサロン おひさまBaby

0歳児のママ同士、子育てのちょっとした悩みを話したり、情報交換をしたり、月替わりの企画でリフレッシュしたりしています。

- 日時：毎月第1水曜日 10:30～11:30
- 場所：みやぎNPOプラザ
- 内容：ふれあいあそび、子育て&地域情報、カフェタイム(お好きなワンドリンク&お菓子)、月替わり企画(離乳食試食・Babyフラ・ママストレッチ・手作りおもちゃ)など
- 対象：0歳児(第一子のみ)と保護者
- 参加費：200円
- 申込方法：下記連絡先にショートメール、メール、電話で申込み。
- 主催：NPO法人アミューズおひさま

- 連絡先：ショートメール・TEL：090-9741-6334
E-mail：ohisamakids@gmail.com

就労継続支援B型事業所 希望の星

「希望の星」は、県内で唯一の視覚障害に特化した就労継続支援B型事業所です。視覚に障害のある利用者一人ひとりの能力と特性を大切に、自立と社会参加を目指すための支援を行っており、下記のような仕事をしています。

- 仕事：
 - ・あん摩・マッサージ・指圧施術(国家資格所持者)
 - ・点字名刺作製(1枚ずつ手打ちで作製しています)、点字文書・点字メニュー作成
 - ・パンの花作品の製作販売・レンタル、ビーズアクセサリー製作販売
 - ・データ入力(手書きの論文や文章・資料等のデータ化、テープ起こし)
 - ・ハックルベリー・菊芋の栽培と販売、ハックルベリージャム製造販売
 - ・ポチ袋、封筒の製作販売(点字用紙を再利用して作ったものです。)
- 相談等：ご注文・ご相談は随時お受けいたします。詳しい内容や料金等については、下記連絡先までお問合せ下さい。
- 運営：認定NPO法人ばざーる太白社会事業センター(略称：ビートスイッチ)
- 連絡先：担当：千田(管理者)、菅原(サービス管理責任者)
 - ・「希望の星」(主たる事業所)
〒982-0801 仙台市太白区八木山本町2-24-1
TEL・FAX：022-228-5060
E-mail：kibounohoshib@yahoo.co.jp
 - ・「希望の星 梅田クラブ」(従たる事業所)
〒982-0005 仙台市青葉区梅田町5-18
TEL：080-9638-8199

イベント



1/12 野山ウォーク・自然観察

高齢者向けの優しい野山散策を楽しみませんか。シルバーネットとTOIの共同企画です。

- 日程：1月12日(金)、1月19日(金)、1月26日(金)
- 場所：仙台市西部の里山
- 参加費：500円
- 持ち物：昼食、飲み物等
- 申込方法：下記連絡先にTELで申込み
- 申込締切：各開催日の3日前
- 主催：東北アウトドア情報センター(略称TOI)

会員募集

社の伝言板ゆるるは「地域の課題を自分たちで解決しよう!」と取り組む市民活動団体をサポートするとともに、市民のみなさんが市民活動やボランティアに興味を持ち、参加しやすい環境づくりを進めています。活動の柱となる月刊誌は、20年を超えて毎月欠かさず発行してきました。これもみなさまの温かいご支援のおかげです。

これからも安心して暮らせる地域づくりのために、多様な情報発信と支援活動を続けていきますので、ぜひ会員として支えてください!

会員種類	年会費
正会員個人・NPO	10,000円
正会員法人	20,000円
賛助会員個人	—□ 3,000円
賛助会員NPO	—□ 5,000円
賛助会員企業・団体	—□ 20,000円

※正会員以外は、総会での議決権がありません。

郵便振替口座

口座番号 **02250-0-43800**

加入者名 **特定非営利活動法人
社の伝言板ゆるる**

会員申込の方は、通信欄に会員の種類をご記入ください。

information

12月15日までにゆるる編集部及びみやぎNPO情報ネットに届いた情報です。詳細は各情報の連絡先にお問合せ下さい。より詳しい掲載情報は右側のQRコードからご覧いただけます。



ボランティア情報



♪元気な子どもたちと楽しもう♪

アフタースクールぱるけは、障がいを持った子どもたちも楽しく豊かな放課後を過ごせるように活動を行っています。子どもたちと一緒に楽しく遊んでくれる方、大々歓迎です☆

- 活動内容：おやつ作りや季節の工作やイベントなど行っています。長期休暇には外食やお出かけにも行きますよ☆
- 活動場所：①ぱるけ南仙台 利用者：障がいのある小学生
②ぱるけ柏木 利用者：障がいのある小中学生
③ぱるけ西中田 利用者：障がいのある中高生
- 活動日時：曜日、時間はご相談ください。
- 募集対象：障がい児分野に興味がある方、放課後等デイサービスのことを知りたい方など募集しています。平日のみ、長期休暇のみの活動も大丈夫ですよ！
- 交通費等：交通費は実費(600円上限)支給
長期休暇での活動は昼食代を支給
当方負担でボランティア保険加入(3回以上活動いただける方)
- 申込方法：活動を希望する事業所にTELで申込み。
※連絡は平日10～13時にお願いします。
- 主 催：認定NPO法人アフタースクールぱるけ
- 連絡先：①ぱるけ南仙台(担当：砂口)
〒981-1107仙台市太白区西中田5-18-3
TEL：022-741-2397
②ぱるけ柏木(担当：阿部)
〒981-0933仙台市青葉区柏木1-7-36
TEL：022-233-8425
③ぱるけ西中田(担当：高橋)
〒981-1105仙台市太白区柳生2-9-2-2F
TEL：022-707-4187

放課後に子ども達と一緒に過ごして下さる ボランティア募集！

STORIAでは、経済的困難を抱えた小学生を対象に、安心・安全な「放課後の居場所」を運営しています。子ども達と一緒に夕飯を食べたり、遊んだりして下さるボランティアさん

を募集しています。

- 活動内容：子どもとの信頼関係を大切にしながら、宿題・夕飯・遊びなど、子どもと一緒に過ごす
- 活動日時：毎週月・火・金曜日 16:00～21:00
※参加できる曜日および時間については、ご相談ください
- 活動場所：仙台市泉区・宮城野区
- 対 象：・子どもの気持ちを大切にしてくださる方
・定期的に参加できる方
※参加頻度については、ご相談ください
※社会人、学生さん募集
- 申込方法：下記連絡先までE-mailまたはTELで申込み
- 募集主体：NPO法人STORIA
- 連絡先：仙台市若林区卸町2-9-1
INTILAQ東北イノベーションセンター
担当：佐々木
TEL：080-3335-3828(平日10～18時)
E-mail：info@storia.or.jp

こどもがつくるまち「Piccoli せんだい」2017 運営サポーター募集！

私たちは、こどもがつくるまち「Piccoli せんだい」という小学生を対象に「働く・稼ぐ・稼いだお金を使う」といった模擬的な社会体験を行う場の企画・運営を行っています。

- 実施日時：2月10日(土)～2月12日(月)
- 場 所：仙台市宮城野区中央市民センター
- 募集内容：本番当日のお手伝いをしてくださる方
- 募集対象：こどもが好きな方、どなたでも大歓迎です!!
※年齢問わず
- 募集人数：10名
- 申込方法：下記連絡先にE-mailで問い合わせ
- 申込締切：1月31日(水)
- 募集主体：NPOピコせんサポーター
- 連絡先：〒983-0047 仙台市宮城野区銀杏町14-15
TEL：080-2823-0872
FAX：022-257-4463
E-mail：piccolisendai@gmail.com

平成29年度仙台市
NPO法人組織基盤安定化事業

2/14 NPO法人のための会計・税務個別相談会

日々の会計業務から決算書作成、税金のことなど、NPO法人の会計・税務に詳しい専門家が個別の相談に応じます。年末調整、支払調書作成などわからないことがあればぜひ！

相談員：平野 由紀子(税理士)
日 時：2月14日(水) 13:00～16:20
会 場：みやぎNPOプラザ 研修室
定 員：3団体(先着順)※1団体あたり1時間程度
参加費：無料
対 象：仙台市内に事務所を置くNPO法人の代表者、会計・総務担当者など

申込方法 下記連絡先にご連絡をいただくか、こちらの申込フォームよりお申込みください。
申込フォーム：<https://goo.gl/NsaA78>

連絡先 認定NPO法人杜の伝言板ゆるる
TEL:022-791-9323 E-mail:npo@yururu.com

主 催 認定NPO法人杜の伝言板ゆるる、仙台市





1/22
(月)

NPO法人のための組織運営力強化プログラム

実体験から考えるよりよい『理事会運営』のあり方

あなたの団体では、理事が団体の責任者としてうまくその役割を担えていますか?このセミナーでは、まずNPO法人の理事としての役割・責任について学びます。さらに具体的な理事会運営のあり方については、参考事例として複数のNPO法人の理事会を運営してきたゲスト2名から成功体験、失敗体験などを聞き出します。よりよい理事会のあり方を模索しているNPO法人のみなさま、ぜひご参加ください!

セミナー

NPO法人の理事の役割とは



● 講師 ●
大久保 朝江
認定NPO法人
社の伝言板ゆるる
代表理事

事例報告

理事会運営の成功談・失敗談

ゲスト



小玉 順子さん

NPO法人おおさき地域創造
研究会理事・事務局長



坂口 和隆さん

認定NPO法人
日本NPOセンター
法人運営チームリーダー

●コーディネーター：大久保 朝江

- 日 時：1月22日(月) 13:30~16:30
- 会 場：仙台市市民活動サポートセンター
セミナーホール
- 定 員：20団体
- 参加費：1,000円(税込)
- 対 象：仙台市内に事務所を置くNPO法人
の代表者、理事、事務局長など
※仙台市外のNPO法人や任意団体の方
は別途お問合せください。

申込
方法

社の伝言板ゆるるまでお電話(連絡先は本ページ下部参照)いただくか、
申込フォーム(<https://goo.gl/NsaA78>)からお申し込みください。



主催：認定NPO法人社の伝言板ゆるる、仙台市

『復興』の先を考えるミーティングin石巻／気仙沼
～SDGsで見るわたしたちの地域社会～

地域の復興とその先に向けて、NPO等と企業など
多様な主体が協働する意義や事例をSDGsの視点
から学ぶと共に、参加者同士の交流を深めます。

※SDGsとは、国連サミットで採択された持続可能
な開発目標です。

プログラム ※内容は変更になる可能性があります

■SDGsについての講演・事例発表

登壇者:新田英理子さん
(一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク
地域連携アドバイザー) など

■交流会

石巻会場

【日 時】2月15日(木) 13:30~16:30
【会 場】石巻専修大学 4号棟 4102教室・4103教室

気仙沼会場

【日 時】2月19日(月) 13:30~16:30
【会 場】気仙沼市役所 ワンテン庁舎 2階大ホール

共 通

【対 象】NPO(法人格の有無・種類問わず)、企業、研究機関、
地域コミュニティ、個人の方など
【定 員】各会場40名(先着順)
【申込方法】社の伝言板ゆるるへTELまたはメールにて
お申し込みください。(連絡先は本ページ下部)

主 催 宮城県 共 催 石巻市、気仙沼市 企画・実施 認定NPO法人社の伝言板ゆるる